進む自衛隊配備　有事なら戦場に

米中対立の矢面　南西諸島　住民巻き込む懸念

南西諸島への自衛隊配備が進んでいる。米中対立の矢面に立ち、台湾や沖縄県・尖閣諸島を巡る情勢を背景に政府は「抑止力の強化」を掲げるが、ミサイル部隊を中心とする戦力増強は緊張をエスカレートさせる可能性もある。万が一にも有事となれば、自衛隊や米軍の部隊が展開する島が攻撃目標とされ、住民を巻き込む戦場となることが強く懸念される。

東西冷戦の下、自衛隊は旧ソ連による北方からの侵攻に備えてきた。沖縄返還の1972年に陸上自衛隊那覇駐屯地が開設されたものの、凄惨な沖縄戦の記憶は色濃かった。自衛隊への反感も厳しく、政府は長く南西諸島への本格的な部隊配備には踏み込まなかった。

だが2000年代以降、中国の軍拡に対し「南西シフト」が取り沙汰されるようになった。10年に那覇駐屯地を拠点とする陸自第1混成団を第15旅団に増強。日本最西端の与那国島に陸自駐屯地が発足したのを皮切りに、奄美大島、宮古島と新設が相次いだ。

今年1月には馬毛島で、米軍艦載機の発着訓練向けの滑走路や、自衛隊の訓練施設や補給拠点となる基地の工事が始まった。3月には石垣島で陸自駐屯地が開設。今後も、第15旅団の師団へ格上げや、新たな部隊の配備がある見通しだ。米軍基地が集中する沖縄本島だけでなく、南西諸島全体の軍事化が続く。

南西諸島、止まらぬ軍事化

12式地対艦ミサイル

陸上から艦艇を攻撃する。現在の射程は百数十キロとされる。射程1000キロ程度まで延ばし、航空機や艦艇からも発射できる能力向上型を開発し、相手国領域内の攻撃にも使う計画

馬毛島（建設中）

- 米軍艦載機訓練用の滑走路
- 水陸両用作戦の訓練施設
- 補給拠点

東京都の小笠原諸島・硫黄島で実施してきた米軍空母艦載機の発着訓練を移転するため、滑走路を整備する。自衛隊の訓練や補給機能も備えた南西諸島の重要拠点となる

与那国島（2016年3月駐屯地開設）

陸
- 沿岸監視隊
- 電子戦部隊（予定）
- 地対空ミサイル（予定）

空
- 移動式レーダー

与那国駐屯地

日本最西端の駐屯地。沿岸監視隊が、航空機や艦艇の情報を収集している。ミサイルや戦闘機を攻撃するための地対空ミサイル配備が予定されている

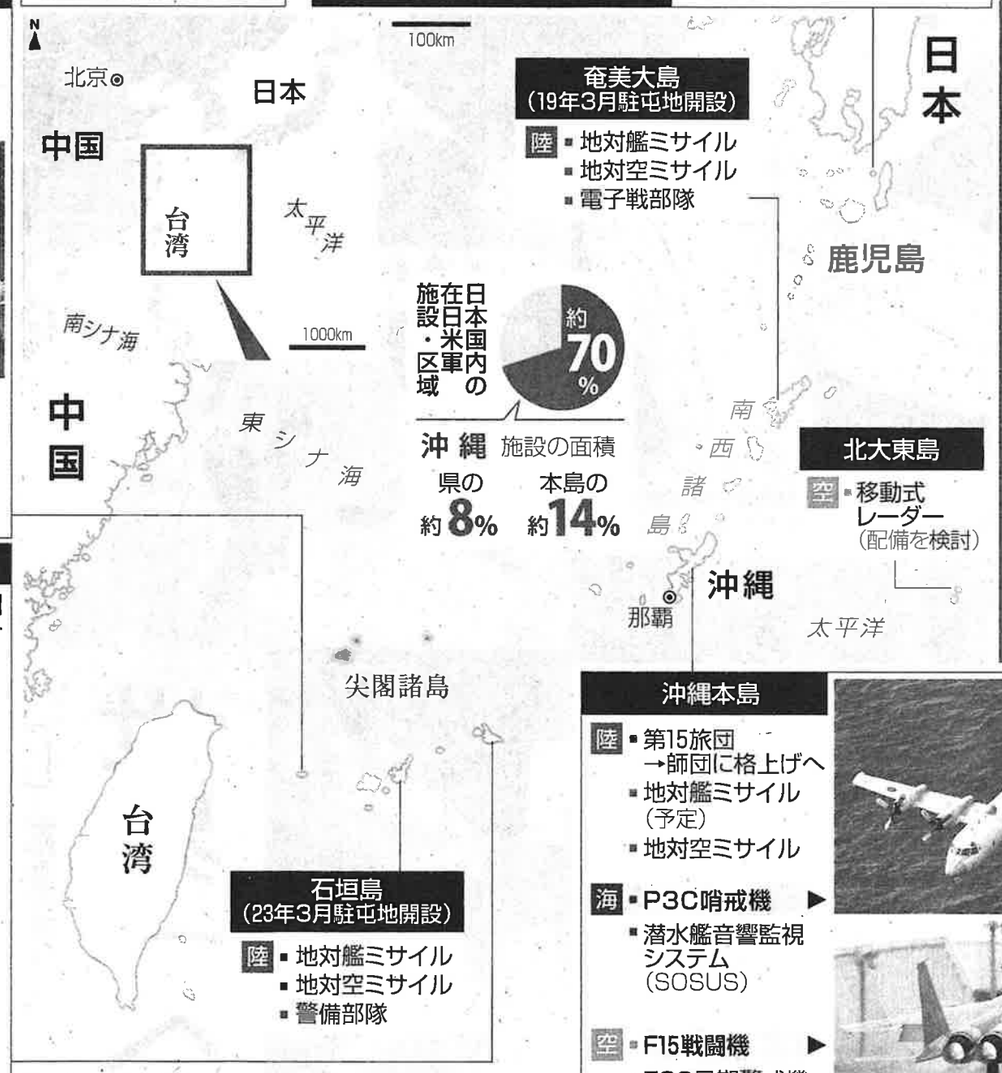
宮古島（19年3月陸自駐屯地開設）

陸
- 地対艦ミサイル
- 地対空ミサイル
- 警備部隊

空
- 警戒管制レーダー

宮古島の警戒管制レーダー

早期警戒機と連携し、航空機の動きを捉える。領空侵犯の恐れがある場合には、戦闘機がスクランブルして対応する



日本国内の在日米軍施設・区域　約70%

沖縄県の約8%　施設の面積　本島の約14%

沖縄本島

陸
- 第15旅団→師団に格上げへ
- 地対艦ミサイル（予定）
- 地対空ミサイル

海
- P3C哨戒機
- 潜水艦音響監視システム（SOSUS）

空
- F15戦闘機
- E2C早期警戒機
- 警戒管制レーダー
- 地対空ミサイル

南西諸島周辺の警戒監視や情報収集に当たる。潜水艦の位置を探り出す能力に優れる

空自の主力戦闘機で、外国機に対領空侵犯措置＝緊急発進（スクランブル）任務の中軸を担う。愛称は「イーグル」

主な部隊・施設

南西諸島への自衛隊配備の経過

1972年10月	陸自那覇駐屯地開設、空自那覇基地開庁
12月	那覇基地に海自哨戒機配備、空自宮古島分屯基地発足
1973年1月	那覇基地の空自戦闘機による対領空侵犯措置開始
2010年3月	那覇駐屯地を拠点とする第1混成団を第15旅団に格上げ
12年9月	日本政府が尖閣諸島国有化
12月	中国機が尖閣付近で日本領空を初めて侵犯
16年1月	空自那覇基地のF15戦闘機を約40機態勢に増強
3月	陸自与那国駐屯地開設
12月	中国軍の空母「遼寧」が、沖縄本島と宮古島の間を初めて通過
17年7月	空自南西航空混成団を、南西航空方面隊に格上げ
18年1月	中国軍の艦艇と潜水艦が尖閣周辺の接続水域航行
19年3月	陸自奄美駐屯地、宮古島駐屯地開設
20年3月	宮古島駐屯地にミサイル部隊配備
23年1月	馬毛島の自衛隊基地着工
3月	陸自石垣島駐屯地開設